

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年6月19日

会議の名称	第3回志木市総合振興計画審議会
開催日時	令和7年5月27日（金） 14時00分～15時45分
開催場所	市役所3階 大会議室3-3
出席者職氏名	[委員] 星野 敦子会長、大村 相基副会長、 吉澤 富美夫委員、岩澤 千恵子委員、竹前 榮二委員、 高橋 大輝委員、岡田 明彦委員、正能 武委員、 中村 勝義委員、碓 俊美委員、大貫 結子委員、 小笠原 順子委員、久保 大地委員、那須 博志委員、 抜井 貴之委員、松澤 真衣委員、松波 雪枝委員 （計17人）
欠席者職氏名	今村 弘志委員、田中 満男委員、関口 清久委員、 木下 武三委員、白川 美津江委員 （計 5人）
説明員職氏名	政策推進課 松田課長、柴谷主査、矢野主任 ランドブレイン株式会社 菅原、稲葉、三溝 （計 6人）
議 題	1 開会 2 議題 （1）第二次志木市将来ビジョン・将来構想（案）について 3 その他 4 閉会

結 果	議題（１）について、事務局より説明し、質疑応答を行った。 (傍聴者１人)
事務局職員氏名	松井市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、 矢野政策推進課主任
会議内容の記録（会議経過、結論等）	
1 開会 2 議題 ・議題の説明に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。 →傍聴希望者あり（１名） (傍聴希望者入室) ・松田政策推進課長から第二次志木市将来ビジョン・将来構想（案）について説明し、内容について質疑応答を行った。 (事務局) 欠席の委員より事前に意見をいただいているので共有する。 「13 ページからの「まちづくりの主要課題とコンセプト」について、「互いに支えあい、健康に自分らしく暮らせるまち」の“支えあい”、“健康”、“自分らしさ”という言葉は大切なことだと思う。17 ページの「将来像の実現に向けて」の施策の柱１の基本施策に“支えあい”の言葉が入っているのも良い。」 (委員) まちづくりのコンセプトは非の打ち所がなく特に言うこともないが、将来像とコンセプトがリンクするとよいと思う。「小さなまち」という要素を将来像案に入れるのであれば、まちづくりのコンセプトでも小さいからこそできることを入れた方がよいのではないか。 (委員) ストーリー性が欲しいと感じた。コンセプトと将来像がそれぞれ独自に議論されないようにしたい。 (委員) 「小さい」について、市内で活動をしていて感じるのは、具体的に実現できるのは小ささのお陰だということである。物理的な小ささではなく、人間関係の間隔が非常に小さいので、様々な場所で関係を作りやすく取組がしやすい。一方で	

なり手が少なく大変だという思いもある。小ささに無理につなげることはないという気がする。

(委員)

今回の案を見て、日本語には人に伝える言葉がこんなにたくさんあり、言葉を1つ変えるだけで全然ニュアンスが違うのだということを痛切に感じた。最近の志木の広報は分かりやすく、読みたいという意識が湧き起こる。『知りたい』が見つかる、『伝えたい』が届くまち」は、まさにこれだと感じた。

また、将来像のストーリー性に関して、「これが絆のまちづくり」「でっかい魅力で」という将来像は、コンセプトと共に読んでいくと見方によってはつながっているように思う。

(委員)

コンセプト案について素晴らしいと思う。非の打ち所がない。

(委員)

前回の案より伝えたいことが伝わる表現になっていると感じた。「子育て世帯が住みたくなるまち」から「住みやすいまち」への修正も、今いる人たちを大事にしながらその魅力を発信し、市外の人も住みたくなるというようになっており、すごく伝わりやすくなったと思っている。修正するところはない。

(委員)

課題5の『知りたい』が見つかる、『伝えたい』が届くまち」について、事務局から説明があった通り、「知りたい情報が見つかる、行政が伝えたい情報が届く」ということだが、情報は行政が伝えたいものだけではなく、市民同士でそれぞれ伝えたいものもあり、それが届くということも含むと思う。『知りたい』が見つかる、『伝えたい』が届く」というのは、何となく主体が分かりづらい気がする。全ての施策において必要な情報が、必要なときに、必要な人に届けられるようにということであれば、語感あまり良くないと思うが、『知りたい』が見つかる、『伝えたい』を届けられる」の方が良いと思った。

(委員)

前回皆さんが感じたことが流れに沿って記載され、「自助・共助」や「支え合い」という言葉も出ており、素晴らしいコンセプトと感じているが、「市民力」、「知りたい」、「伝えたい」が鍵括弧で括られている理由を尋ねたい。将来像のA案でも、「志木市が好き」は鍵括弧がある。強調の意味であつたり、あるいは発言の意味であつたりするが、どのような意味で使われているのかによって、捉え方が違ってくるのでお尋ねする。

(事務局)

まず14ページの『市民力』が躍動するまち」については、志木市内では「市

民力」が「市民が持つ力」という固有名詞として定着が進んでいると考え、この表現を使っているが、知らない人が見た際に物や人ではない「市民力」が躍動するという表現に違和感を覚えることが懸念されるため、鍵括弧により固有名詞を表現している。

15 ページの「知りたい」「伝えたい」の鍵括弧については、セリフのようなイメージであり、「知りたい」「伝えたい」という気持ちに対して見つかる、届くという意味で使用している。

「志木が好き」は、韻を踏んでる部分を強調するために鍵括弧で囲った。

(委員)

そのような意図であれば、まちづくりコンセプトの『『知りたい』が見つかる、『伝えたい』が届く』に読点が付く理由が分かった。

また、将来像のA案については、非常に良いけれども、頭文字に「小さい」という言葉が出てきて、それだけが何か印象に残る。何が小さいのか、一般の方に分かりづらいのではないか。

それから「志木が好き」については今の説明で理解したが、鍵括弧が付くのであれば、その前の読点は外した方が言葉並びは綺麗に感じる。

(委員)

14 ページの課題3に、地域活動に参加していない理由として「時間が取れない」が挙げられているが、まちなかを見ていると時間がありそうな人も結構いらっしゃる。時間が取れないという理由であると、この人手不足等にどう対応すべきかが悩ましい。

(事務局)

令和6年度に実施した市民意識調査で「地域活動に参加しない理由」として、1番多かったのが「活動に参加する時間がない」で約30%、次に「活動をするきっかけがない」が約20%、「活動についての情報がない」が約16%、あとは「活動に関心がない」が約14%であった。活動に参加する時間がないということだけが理由ではないため表現を検討する。

(会長)

仕方ないと思われたいような、前向きになるような表現を考えてほしい。

資料の17ページの「将来像の実現に向けて」については前回の意見を受けて修正された部分がある。例えば、施策の柱1の基本施策から「ウェルビーイング」がなくなり、「共生」がなくなった代わりに「支えあい」という言葉が入っている。また、3の⑤に「文化財」が追加されている等だが、ここについて意見はあるか。

(委員)

施策の柱5の②に「シティプロモーション」とあるが、自分は英語に弱いので、

これがどういう意味なのか分からない。

(事務局)

「シティプロモーション」は、志木市のことを市外の人に知ってもらい、志木市に来てもらったり、志木市に住んでもらう人を増やしたりするために行う、市外に対する情報発信のことである。

(委員)

日本語でも分かるような言葉に変えてもらった方が良いと思う。一般の方は分からないのではないかな。

(会長)

自分はいくつかのこういった基本計画等に関わっているが、シティプロモーションはどこの行政でも使われている一方で、市民の中には意味が分からないと感じている方が多いということがある。現状では「広報・広聴、シティプロモーション」となっているが、検討の余地があるのではないかな。

(委員)

ある程度は定着しているので、注釈を付けるのはどうか。

(委員)

言い換える言葉として、「市の魅力発信」はどうか。

(委員)

「何とかプロモーション」という言葉は目にするので、一般にも知られている気がする。逆に、なぜシティプロモーションという言葉があるのに、その説明をわざわざ頭に出しているのかと思うかもしれない。

(事務局)

シティプロモーションという言葉の注釈を入れるか否か検討する。

(会長)

第二次志木市将来ビジョン将来構想案についてはここまでとする。ここからは将来像について質問、意見をいただきたい。

(委員)

3点、気になるところがあった。1点目、A案とB案の「いいね！」について、SNS等で共感する際に使うと思うが、全世代に理解してもらうのは難しいと思う。2点目、A案の「あなたに届け」は将来像としてどのような意図を持つのか聞きたい。3点目、「小さい」という言葉がB、C、D案に入っているが、志木市をあえて小さいと言う必要があるのか。違和感があるが、小さいという言葉を使うのであれば、「小さな志木市」というB案よりも、C案の「小さいからこそできることがある」というような表現が良い。C案とD案を組み合わせ、「小さいからこそ生まれるでっかい魅力、絆でつくるまちづくり」のような案はどうか。「小

さい」を使うのであれば、もっと深掘りできるような将来像だと良いと思う。

(委員)

若い人の「いいね！」も、そういう世界に馴染んでいない人の「いいね！」も、「良い」という意味なので、それほど差はないのではないかな。

(委員)

「支え合い」というコンセプトに対して、生まれた子どもがここで生涯が終わるまで志木市に住む、昔で言う「ゆりかごから墓場まで」のような表現がないかと考えている。志木市が「人生丸ごと寄り添うまち」であってほしい。「寄り添う」という言葉が高齢者には重要だと思う。

(委員)

「小さい」という言葉に違和感があるため、A案が良いと思うが前半の言葉はあまり印象に残らないと思う。最後の「志木が好き」は良い。

(委員)

将来像はスローガンのようなものか。

(事務局)

この 10 年間の計画である将来構想の 1 番上に来るスローガン、キャッチフレーズのようなものとなる。この計画で目指すまちの姿を一言で表したものが将来像で、議論いただいているものである。

(委員)

今後、広報で頻繁に出てくるとなると、考えるべき文言や長さは変わってくると思う。

(事務局)

長くなる場合は副題のようにすると方法もある。市の封筒には「市民力でつくる 未来へ続くふるさと志木市」と、現計画の将来像が書かれているが、現在検討いただいている将来像も同様に使用していく予定である。

(委員)

あまり長くない方が良い。市民が分かりやすいものにしなければならない。

(委員)

志木市外に住んでいるが、志木市が小さいという認識はなかったもので、小さいことを強調していることに違和感がある。

また、「寄り添う」という要素は入れておきたいと思った。

(委員)

A案とB案にある「いいね！」という言葉は、まちづくりでの取組に対して、また、小さいからこそできたことに対して「いいね！」が生まれるということである。「小さい」という言葉を入れるかどうかということは、「いいね！」と思っ

てもらうための、小さいからこそ、市民力があるからこそそのまちづくりの部分に焦点を当てるか、『いいね！』が生まれるまち」という着地点に焦点を当てるかの差だと思う。

(委員)

「小さいからこそ」と上手く対比になっているので、「小さい」を入れても良いと思っている。小さいからこそコンパクトシティみたいな考え方もできるし、都市にギュッと機能が集まっているというところを含めて、志木市のアイデンティティとして「小さい」があると思う。

あとは、個人的な意見だが、C案は少しダサいと思うので、それ以外が良い。

(委員)

「小さい」を入れるべきかどうかはとても迷う。計画期間である10年の間「小さい」と言われ続けるのはどうかと思う。しかし、この志木市だからできるということもたくさんあるので、大事な言葉ではある。

(委員)

あえて「小さいまち」と入れる必要はないと感じている。B案は「小さなまちにギュッと詰まった」から「小さなまち」を取って、「ギュッと詰まった大きな魅力」だけの方が良いのではないか。各意見を聞いていると、小さな志木市という表現も必要かとも思うので悩ましいが、キャッチコピーならば「いいね！がいっぱい SHIKI city」や「いいね！がいっぱい あなたに届け、『志木が好き』」のように短い方が良いのかと思う。

(委員)

前回の会議内容も踏まえた「支え合い」「自分らしさ」「住みやすい」や、先ほどから皆さんの意見に上がる「寄り添う」が今回のキーワードだと思っている。

「いいね！がいっぱい」の志木をメインとして、副題として「住みやすい志木市を目指して」のような最後ゴールを示し、そこに例えば市民で支え合う、市民に寄り添う等のような言葉が入ってくると良いと思う。限られた字数なので「小さい」という言葉はあえて入れなくても良いのではないかと考えている。

(会長)

メインの部分は短く分かりやすい方が良いのかもしれない。

(委員)

つい先日、小学校の田んぼの田植え前の草刈りに参加したが、そこにセネガルや中国の方も参加していた。B案は志木市が「SHIKI city」と英語で書かれており、国際化が進む現代のことを考えると良いと思った。B案の副題については、「小さなまち」を除いて「ギュッと詰まった大きな魅力」だけでも良いと思った。

(委員)

「寄り添う」や「支え合う」が最初にあると、優しいまちという印象があり、人を大事にしているというところが伝わると思う。

(委員)

「小さい」を何らかの形で入れてもらいたいと思っている。近隣市と比べて小さいというと、どうしてもマイナスのイメージになってしまうが、やはりポイントになってくるところなので、何らかの形で残したい。しかし、前面に「小さい」という言葉が入ることには少し違和感がある。B案のように副題で「小さなまちに」、それも「小さなまちにギュッと詰まった」とすることで前向きなイメージになる。この副題はとても良いと思った。ただし、この「いいね！がいっぱい SHIKI city」のようなものがメインに来ると、少し漠然としているので、そこに皆さんから提案があったような「寄り添い」等を入れると良いのではないかな。

(委員)

おそらく、事務局側で「小さい」という言葉を使っているのは、物理的に面積が小さい、人口も少ないということだと思うが、私が感じているのは気持ちの距離感の話である。市民の多くが都心に通っていて、志木市には寝るために帰るだけになっている人たちは、志木市が小さいとは全く思っておらず、逆に市のことを身近に感じていないのではないかな。その気持ちの面での距離感を、そうではないということを強調する言葉として自分は理解していた。物理的な「小さい」という言葉がマイナスのイメージになってしまうという意見はもっともであると思う。どういう表現が良いのか、何か良い表現があると良い。

(委員)

C案について、「小さいからこそ」とあるが、志木市は全国で見ると市としての面積は6番目で、成田空港より小さいそうである。「小さいからこそ」というのは、あえて入れた方が良い場合があるのではないかな。どこでも大きくすれば良いと思っているが、「小さい」という言葉が入ればインパクトがあって良いと思う。しかし、後半の「やさしきし」については、漢字の「志木市」を入れてもらった方が、インパクトがあって良い。志木市は全国的に見れば知られていないところがあるので、漢字で書いてアピールした方が良い。

(委員)

句読点は使わず、短いスペースを置いて並べた方が綺麗だと思う。

(委員)

「小さい」というイメージを10年間背負っていくことが、将来像として果たして良いのかを考えてほしい。それから、福祉に携わる者としては、高齢者あるいは弱者に寄り添うという言葉は常々使っているので、そういった言葉を副題に使ってもらいたい。B案の副題に「寄り添って」ということを加えるのが良いと思

う。「放課後志木っ子タイム」は、当初はひらがな表記だったが、市長が小学生でも「志木」は読める、自分が「志木」に生まれ住んでいるということを意識してもらいたいと話していた。

(委員)

仮に「小さな志木市」を使うのであれば、それと反対の言葉を使って、「小さい」を逆に活かせるような形が良い。

また、「寄り添う」という言葉が自分の中で腑に落ちてきた。コンセプトや政策の柱を見ても、志木市が寄り添ってくれるような内容になっているので、将来像のどこかで何かしらの形で「寄り添う」という言葉を使うと、将来像とコンセプトがリンクしてくると思った。

(委員)

高齢者の方たちと一緒に活動していると、「支えあう」は負担に感じることもあるようである。「寄り添う」は良いと思う。

(会長)

議論の中で、コンセプトから将来像へとつながるストーリーが見えてきたような気がする。志木の表記についても色々と意見があるが、皆さんが志木のことが大好きだということが伝わってくる議論だと感じた。自分もそれほど小さいイメージがなかったが、とにかくパワフルであり、非常に柔軟で、機動力があると思っており、規模が小さいことがプラスになっているのだと思う。

(事務局)

決定に向けて一度整理したい。「小さい」は肯定的な意見、否定的な意見の両方があったと思うが、入れた案と入れない案の2つを作った方が良いか。それとも、ネガティブなイメージがあるため使わない形だけにした方が良いか。

(会長)

これまでの議論を整理すると、B案は「SHIKI city」を漢字の表記にした方が良いのではないかという意見が少し多かった。それから、「ギュッと詰まった」という表現は分かりやすいという印象なのかもしれない。また「寄り添う」という言葉をできればどこかに入れて欲しいという意見があった。

「小さい」を入れるか入れないかという点では、入れるならメインよりも副題の方が良いといった議論があり、今後10年間を考えると、「小さい」はネガティブなイメージではないかという意見が多かった。追加で発言はあるか。

(委員)

「小さい」は距離感のことを言っている。14ページの課題で地域活動に参加できない理由で「時間がない」とあったが、市民にとって地域参加はハードルが高い世界だと思われているということではないか。実はそうではなく、非常に身近

な存在であるということをどのように伝えるかが重要だと思う。

(事務局)

「寄り添う」については、イメージとして誰が誰に対して寄り添うのか、というところがある。将来ビジョンは、基本的に市民全員が対象になってくる。市が寄り添うのか、市民同士の寄り添い合い、支え合いの意味でもあるのか。

(委員)

通常は弱者に対して寄り添うという意味になってしまうのではないか。ただし、市の上位計画なので、もちろん市民の一部だけということはある得なく、寄り添う側が行政、寄り添われる側が市民になるのかと思うが、それをダイレクトに伝えることは難しいので、抽象的な表現でも良いのではないか。

(事務局)

「弱者に寄り添う」となってしまうと、市全体を捉えたときの将来像としてどうか。もちろん寄り添うことは非常に大事なことだが、例えば高齢者の方でも、認知症になっても共に自分らしく生きる、寄り添われるだけではなく一緒に生きていく、という共生社会の考え方もある。「あなたに寄り添うまち」というように、全市民が対象となる表現としたい。

(委員)

扱いが難しいのであれば「絆」等で「寄り添う」の意味を含ませるのはどうか。

(委員)

「人生丸ごと寄り添うまち」といった表現はどうか。

(委員)

「いいね！がいっぱい志木市」が目指すところである。それを目標として取り組み「ギュッと詰まった大きな魅力」ができて、最終的に「いいね！志木市」ということにつながっていく。「絆」や「寄り添い」等、具体的な言葉を使わなくても、目指すことと達成しようとするのが掲げられれば良いような気がする。

(事務局)

今回の議論を踏まえて次回改めて案を提示し、皆さんから意見をいただきたい。

(会長)

大変活発な議論をいただいた。それでは以上で、議題を終了する。

3 その他

4 閉会

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。